

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和8年2月19日

施設名	高知県立埋蔵文化財センター	所管課	文化生活部 歴史文化財課
-----	---------------	-----	--------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
施設所在地	南国市篠原1437-1		
事業内容	○施設管理(埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行う) ○出土文化財等資料管理(出土遺物を適切に保管・管理し県内外からの依頼に応じて貸出等を行う) ○広報普及(発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開することにより埋蔵文化財に対する保護の推進と普及啓発を図る)		
施設内容	○面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など 面積:本館(1,038.68㎡) 北館(518.40㎡) 南館(1,045.92㎡) 収蔵庫(1,527.52㎡) 展示室(51.63㎡) 開館時間:午前8時半～午後5時 休館日:土・日・祝祭日、12月29日～1月3日 (巡回展の期間中及び公開講座等開催日の日・祝祭日は開館) 利用料金:無料		
職員体制	県派遣職員:1人、教職員派遣:4人、財団職員:4人、財団嘱託職員4人、契約職員4人		

※職員数は令和6年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		令和5年度(決算)	令和6年度(決算)	令和7年度(予算)
収入	県支出金	46,526	48,558	52,290
	補助金等収入	1,800	1,800	
	その他	318	269	
	収入計 (a)	48,644	50,627	52,290
支出	事業費	11,938	11,757	11,335
	管理運営費	14,382	15,339	15,293
	人件費	22,324	23,531	25,662
	その他	0	0	0
	支出計 (b)	48,644	50,627	52,290
収支差額 (a) - (b)		0	0	0

3 利用状況

	令和5年度	令和6年度	前年度比
①年間利用者数(単位:人)	3,542	4,459	+ 917人

②利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) 展示企画や関連行事、公開講座への参加者に対して、その都度アンケートを実施することで意見や感想の収集及びニーズの把握に努めた。 回答数:4,651(館外での講座を含む)
	○ 利用者意見等を踏まえた対策 ・各講座後に受講者アンケートを実施し、結果を次年度の講座内容等に反映させている。 ・ニーズに合わせて、ものづくり教室等の定員を一部増やす等対応している。 ・遺跡展で現在の地図を提示し、場所を想像できるようにしている。(前年度アンケート要望による改善)
	○ その他(以下は、アンケートの一部) ・発掘へんろ展について、専門知識を持っていなくても分かるように話してくれたので良かった。 ・刻書土器の展示を見に来た際、職員が展示室を説明してくれてすぐに見ることができて良かった。受付の方も感じが良かった。 ・1つのテーマに絞った展示はわかりやすくて良かった。 ・講演会について、高知県の歴史が理解できる講演だった。 ・地域展のギャラリートークについて、臨時駐車場の場所を早めに決めてほしい。 ・まいぶんセンターまつりでの発掘体験について、昨年度からさらに本格的な企画になっていた。勾玉づくりが人気で長蛇の列ができていたため、整理券を配布するなど対策が必要。
③その他特記事項	
4 業務評価	
項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	・建物・設備の管理について、適宜修繕を実施する等、入館者に対して安全かつ快適な利用環境を提供している。 ・高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例、基本協定書、仕様書及び事業計画書の内容に従って適正な管理が行われている。 ・災害発生時等の危機管理体制が整備されている。
②利用者サービスの維持向上	・写真資料をデジタルデータ化し、展示パネルやHPでの遺跡紹介に活用している。 ・若宮ノ東遺跡の刻書土器が発見されたことにより、来館者数が対前年度比25%増となった。 ・パンフレット及び年間行事カレンダーなどを教育関係機関・観光施設への配布、インターネット上での公開に加えて、R5から宿泊施設や温浴施設にも配布し県外客への誘客に取り組んでいる。 ・各講座申込みをWebで行うなど、参加者の利便性向上に努めた。
③利用実績	・学校等による団体見学は、22団体420人(昨年度15団体284人)と増加している。 ・広報普及事業の中核である出前考古学教室は、75校(2,735人)を対象として、出土遺物に触れる機会を提供し、文化財保護意識の普及啓発が図られたといえる。 ・フィールドワークを実施することにより、地域の歴史、文化財に対する興味や関心を喚起できており、また、リピーターの獲得にも繋がっている(年3回77人)。 ・報告書と収蔵遺物の照合作業を行い、破損や注記の風化が確認された3,772点について接合・補填・注記等の修復作業を行っており、収蔵遺物の再整理ができています。 ・地域展について、市町村の遺跡や歴史に対する興味と関心を高める機会となった。
④収支の状況	高知県からの指定管理代行料に加え、文化庁の国庫補助金を活用するとともに経費の節減に努め、業務に要する適正な経費を支出後は残額を県に精算返納した。
総合評価	A ・施設館内の維持管理について適正に実施できている。 ・地域に根付いた地道な広報活動及び刻書土器の発掘事業により、入館者は対前年比で大幅に増加している。 ・テーマ設定に基づく展示企画とそれに関連する講演会等の内容の精選と充実を図り、利用者から好評であった。 ・埋蔵文化財センターの設置目的である埋蔵文化財への理解と保護を目指し、情報発信と各種企画展、各種講座、出土遺物に触れる機会の提供等センターがもつ特色を活用し、施設利用者の確保や文化財保護意識の普及啓発に努めていることは高く評価できる。

- 【評価の目安】
- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 - B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 - C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 - D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの